

**松葉堆肥を活用した農作物（松キュウリ等）による地域活性化への取組み  
～（和歌山県美浜町）～**

【和歌山財務事務所】

**1. はじめに**

和歌山県中部の美浜町の沿岸部に、日本の名松百選に選ばれた「煙樹ヶ浜の松林」があり、長さ 4.6km、幅は広いところで約 500mにも及び、近畿最大の規模となっています。

この松林は、いつ頃形成されたものかは明らかではありませんが、江戸時代の紀州初代藩主徳川頼宣公の頃（1619年頃）にはすでに「御留山（おとめやま）\*」として伐採が禁じられ、保護されていました。その後、現在に至るまで見事な景観を保ちながら、美浜町周辺を潮害や風害から守り続けています。

しかしながら、かつて、かまどや風呂の焚き付け用に利用されていた松林の枯れ松葉は、生活様式の変化によって利用されなくなり、松林に堆積したままの状態となって、松の生育にも少なからず影響を及ぼしていました。



(煙樹ヶ浜の松林)

**2. 地域活性化に向けた取組み**

こうした中、美浜町では、未使用バイオマス資源である松葉を堆肥として活用し、これを農作物の栽培に使用することにより、松林の保全に努めるとともに、農作物のブランド化による地域農業の振興に取り組んでいます。

取組は、まず松葉堆肥作りから取り掛かり、松葉堆肥に必要な枯れ松葉は、周辺住民や地元の小学生等が中心となって「松葉かき」を行い、毎年約 10 トンが採取されます。

この松葉の堆肥化は平成 18 年度より始められましたが、松葉かきを行うことによって、松の生育環境が改善し松枯れが防止され、防潮林としての機能が保たれています。

また、この松葉かき作業を通じて、住民の環境意識の高揚や、住民同士の交流が盛んになるなど、地域の活性化にも繋がっています。



(松葉かきの様子)

\* 江戸時代に徳川家の狩猟地として一般人の立ち入りが禁止された土地のこと



(松キュウリ)

集めた松葉は、石灰窒素入りの籾殻を加えて、松葉の発酵を促進させ、1年以上掛けて堆肥化し、完成した堆肥は、美浜町の特産物であるキュウリやトマト栽培に使用されます。

採れた農産物は「松キュウリ」、「松トマト」と地域ブランド化して、産地直送を売りに地元のスーパーやサービスエリア等で販売されています。また、平成23年度からは、「松イチゴ」の栽培も始められ、年々「松」ブランド化した農作物の広がりもみられており、この地域では非常に注目を集めています。

こうした取組を支援するため、美浜町は平成21年度に「煙樹ヶ浜松葉堆肥ブランド研究会」を設立し、松葉かき作業に必要な備品等の整備や作業効率化のための助言のほか、松キュウリ等の成分分析や残留農薬検査などを行っています。



(ブランド研究会 パンフレット)

### 3. さらなる発展に向けて

こうした取組は、これまで不用物として放置されていた松葉が循環型資源として活用されるだけでなく、松葉かきによる松林の環境保全や周辺の防災対策のほか、松葉かき作業を通じた住民交流や農家の活性化等、多面的な効果がもたらされています。

しかし、年々農作物の生産拡大を図ってきている一方で、この取組を安定的なものとするには、さらに販路を広げることが必要不可欠となってきます。このため、近時、美浜町では、ブランド価値向上による販売促進を目指し、「まつりん&ぼっくりん」という愛称の煙樹ヶ浜松林イメージキャラクターを作成し、農作物のパッケージへのシール貼付や、大阪、名古屋等の県外イベントに着ぐるみで参加するなど、積極的な広報活動が行われているところです。

こうしたPR効果が表れ、今後、一層の活性化に繋がることが期待されます。



(県外イベントの様子)

【写真右：まつりん&ぼっくりん】

(美浜町ホームページアドレス：<http://www.town.mihama.wakayama.jp/>)